



やまだ

議会だより

シリーズ 家族の笑顔

田の浜地区在住の永野さん家族。
田の浜地区に整備された防災緑地公園
で、町への提言、思いを伺いました。
(関連記事P12)

No. 164

2019.8.1発行
岩手県山田町議会



6月
定例会

前山田病院の解体を可決 — 2P

町の考えは（8人が一般質問） — 3P

先進地に学ぶ

常任委員会で大槌町、陸前高田市を視察 — 11P

議会改革の検討結果を報告 — 11P

前県立山田病院 の解体を可決

6月 定例会の あらまし



解体、撤去後は新たな観光拠点として整備される予定です

令和元年6月定例会は6月13日から18日まで6日間にわたって開かれました。町長提案の議案17件を審議し、全て原案のとおり可決しました。(2ページ)

一般質問では8人の議員が登壇し、活発な議論が行われました。(3～10ページ)

定例会の議案審議や一般質問での質疑全文を記録した会議録は、9月下旬ころから、議会ホームページ、町立図書館で閲覧可能となる予定です。

新たな観光拠点整備事業を実施するため、

前岩手県立山田病院の敷地内にある病院棟などを解体、撤去する工事の請負契約の議案が提案されました。全員賛成で可決しました。

■工事の概要

▽病院棟解体・撤去
4095・73

平方メートル

▽車庫棟解体・撤去

35・68平方メートル

▽駐輪場解体・撤去

24・43平方メートル

▽その他解体・撤去

浄化槽、オイルタンク、受水槽、フェンス、

照明柱等

▽工期

元年6月28日

～元年12月27日

▽請負契約金額

1億1715万円

▽受注者

蒲野建設株式会社

宮古営業所(宮古市)

条例の一部改正を可決 子に係る医療費現物給付を 小学生まで拡大

医療費助成事業において、子どもに係る現物給付を岩手県内の全市町村が統一して小学生まで対象拡大することに伴い、「山田町乳幼児、児童生徒、妊産婦及び重度心身障害者医療費給付条例」および「山田町社会福祉憲章条例」の一部を改正する議案が提案されました。全員賛成で可決しました。

■条例改正の概要
▽山田町乳幼児、児童生徒、妊産婦及び重度心身障害者医療費給付条例の一部改正

条例第10条第3項にある受給者の範囲を「未就学児」から「出生の日から12歳に達する日以後の最初の3月31日までの間にある者」に改めました。
(※受給者の範囲が小学生まで拡大されました。)

現物給付とは

病院などで健康保険証を提出することにより一定割合の自己負担で診察や治療、薬の処方を受けることができるもの。患者が受ける治療やサービス等の現物を給付すること。

▽山田町社会福祉憲章条例の一部改正

条例第11条第11項にある受給者の年齢を「6歳」から「12歳」に改めました。

旧トロッコ線の道路整備は

排水路整備に合わせ行なう計画



道路整備が実施される森林管理署用地（豊間根地区）

問 三陸北部森林管理署用地（トロッコ線）の道路整備は、豊間根地区の排水路整備事業に合わせて実施する計画だったが進捗状況は。

佐藤町長 軌道敷道路改良事業として舗装と側溝整備を行う計画で、昨年度、測量設計業務を行った。排水先の豊間根排水路整備は、本年度国道45号の横断排水路などの工事を行い、令和2年度に豊間根中学校までの区間を整備し、流末の幹線排水路と接続する計画。

健康増進センター 補修計画の状況は

計画策定を行い委員会で検討



屋根の補修が待たれる健康増進センター

問 健康増進センターの屋根の補修計画と今後の管理運営はどうなっているか。

町長 屋根の補修計画は昨年9月に改修工事設計委託業務を発注し、ことし2月に成果の納入を受け本年度に改修工事に取り組み予定だったが、町公共施設等総合管理計画推進委員会を設置し、改めて施設の更新、統廃合または長寿命化等の計画策定を行うこととしたことから、当委員会の中で検討していく。管理運営については、これまでと同様の運営になるが、利用者にとって不便を来すことのないよう維持管理に努めていく。

仮設住宅の集約の状況は

12団地減り34団地に入居中

問 仮設住宅の集約はどのような状況か。

町長 46団地あった仮設住宅のうち、これまでに12団地を解体・撤去した。

本年5月31日現在、34団地に193戸、354人が入居している。

問 中小機構が設置した仮設店舗および作業施設

の撤去の状況は。

町長 現在、貸付期間が終了した施設のうち、解体撤去に至っていない施設は、川向第三産業復興棟の1カ所で、現在、今後の活用策を検討中である。

尾形英明 議員
(新 生 会)

インフラ事業の進捗は

調査、要望をしている



山崎 泰昌 議員
(政 和 会)

問 信号機や標識、案内板は順調に整備されているか。

佐藤町長 宮古警察署では第7分団屯所付近の交通量を調査し、再度、県警本部に上申する考えである。

問 細浦の山高の上がり口や織笠大橋のたもとにも同時に申請していくよう働きかけるべきでは。

建設課長 織笠・外山線と国道との交差点、織笠大橋のところの織笠南側線との交差点なども要望をしている。

問 長林や田の浜などの高台団地への経路が分かりにくい、いづころ調査を始めるのか。

建設課長 現場を調査しており、具体的な設置箇

所等について検討を進めている。
問 町道織笠・外山線の拡幅改良工事と田の浜地区低部道路の新設は進んでいるか。

査を行う。田の浜地区は本年度に概略設計を行う。
問 田の浜地区の道路はどのようなルートか。
建設課長 前須賀・タブの木荘線と寺家口線との交差点付近から前の漁村センター付近を通り、わかき線に接続する。



整備中の寺家口線（写真左側）と前須賀・タブの木荘線（写真中央）

観光拠点の位置づけは

3つの拠点を考えている

問 新たな観光拠点はもとより町内経済の維持、発展の構想は。

町長 山田インターから山田南インターまでは8分の通行時間で、国道45号を使えば11分かかる。北浜の新たな拠点と町中心地、道の駅やまだを巡ってもらえるような施策を考える。

問 鯨館も観光のツールだと考えている。町民有志により展示物の英文表記が可能になると聞いたが町は取り組まないのか。

野口水産商工課長 教育委員会も提示を受けており、それを活用して事業を進める。

新規の水産物養殖とは

アサリの試験養殖を

問 新たな養殖種目の導入を検討しているのか。
町長 三陸やまだ漁協で本年度よりアサリの試験養殖を開始する。町はい

かだや資材の整備に対する支援を行っており、漁業所得の向上を図る。
問 つくり育てる漁業の再生事業に町が積極的に

取り組んでいることは評価するが、事業の成果についての検証を漁協単独では無理なので町も参画するべきでは。
水産商工課長 町独自の専門の職員がいないので、水産団体や県と連携しながら進めていく。

地域公共交通網形成計画

交通弱者等の移動手段の確保は

関係機関等と連携し検討を進める

山田の海を守る会の活動は

活動内容を協議・検討

問 12月定例会において、町地域公共交通網形成計画について質問した。その際、交通弱者や高齢者の移動手段の確保は重要な課題と捉えているので具体的に検討していくとの回答を得た。その後の公共交通網形成計画策定について説明せよ。

佐藤町長 本年3月に策定した地域公共交通網形成計画は、公共交通網を広域路線とまちなか循環

線、町内路線、交通・交流拠点によって結ばれるネットワークの実現を推進する計画として策定した。交通弱者や高齢者の移動手段の確保は重要課題と捉えており、今年度から計画に基づき、まちなか循環バスの運行や患者輸送バスのコミュニケーションバス化、デマンド型交通など、具体的な検討を関係機関等と連携して進めていく。

問 山田の海を守る会の活動が休止状態となつて久しい。今こそ山田町の海を守るための活動が町民から期待されていると思うが、海を守る会について、海を守る推進事業も含めて、今後どのような考えているのか伺う。

町長 山田の海を守る会は、町内の各団体の賛助金と町からの負担金を主な財源として運営しており、現在は休止状態であるが、町としても活動再開の必要性については認識している。また、海を守る推進事業として、山

田湾・船越湾の水質調査、小学生が河川で行う水生生物の生息状況調査などについては、震災後も継続して実施しており、今後は賛助金の在り方や活動内容などについて関係機関と協議・検討していく。

問 海の生態系にとって脅威なのは海洋汚染であり、有害物質を海洋生物が食べて蓄積されるマイクロプラスチックが世界的に大問題となつている。海洋汚染防止のためには、我々住民も自分たちの地域は自分たちで守

る活動をしなければならぬ。日々のごみ分別、マイバックを持つ等、山田の海を守るため陸のモラルが大事だと思う。海を守るための所見を伺う。

佐々木町民課長 まずは山田町環境衛生実践会の各地区の活動再開に向け

た支援をしていきたい。また、海を守る前提として陸上の環境浄化が必要であり、マイクロプラスチックの問題も含めたごみの減量化を進め、その活動がひいては山田の海を守ることに繋がっていくと考えている。



山田の海を守るため陸上の環境整備を



吉川 淑子 議員

(新 生 会)

運動公園野球場の芝管理は

専門業者へ依頼し修復対応



議員 清貴 関
(政和会)

問 国体を開催した野球場の芝が枯れている。施設管理を適正に行い、市民が誇る野球場として管理運営をすべきと考えるがどうか。

佐々木教育長 昨年に害虫が発生し芝が枯れた。その後専門業者に依頼して修復している。今後も適切な管理運営に努める。

問 具体的にどのように管理するのか。再生の方法を探るようであるが、来年も同じことになるかもしれない。対応策を考えてはどうか。

後藤生涯学習課長 専門業者に芝の再生を依頼し、その結果で対応する。

問 運動公園の飲料水は昨年から利用できない



利用者から飲料水の供給が望まれる町民総合運動公園

◆ その他の質問
学校解放の利用は

が、今年も同様の状況か。

教育長 簡易検査で飲料不適と指摘され、飲み水の利用を禁止している。飲み水として利用するには膨大な費用が掛かることから改善は難しい。

問 関係課等で知恵を出し合って改善策を協議したか。

甲斐谷副町長 飲料水については、数年前から供給方法が

給方法を庁内で協議したが多額の経費が掛かることから検討中である。

問 町民グラウンドテニスは老朽化しているが、高台に住む人たちが気軽にテニスができ、中学校が部活に利用できる全天候型の施設とする考えはないか。

教育長 施設の老朽化はあるが整備は考えていない。

地域商社の今後の展開は

事業者と連携し 商品開発、販路開拓を

問 地域商社ができたが今までの実績と今後の展開は。

佐藤町長 山田プライド株式会社は町が委託したふるさと納税推進業務を柱とした事業に取り組んでいる。また、町内業者を訪問し、事業展開を見据えたヒアリングも行っている。今後、町内業者と連携して商品開発、経営支援を展開し、商品価値を高め、新たな販路の開拓を目指している。

問 駅前観光バスの駐

停車スペースを確保して観光客の誘致を。

町長 現在のバスロータリーでも乗降は可能と考えている。また、国道45号沿いに大型バスも駐車できる駐車場を整備中である。

問 外国人観光客誘致のために外国語表示が必要と考えるがどうか。

町長 本町にも外国人ツアー客が訪れており、外国語表示は欠かせないものになっている。対策を講じたい。

町道の安全安心は

交通規制施設は警察へ要望

問 復興事業で新たな町道ができたが、交通安全施設の要望を地域の方々からどのように聴き、施策に反映させているか。

町長 町内通学路の合同点検、地域の要望を踏まえ対応している。交通規制施設の要望は岩手県警察へ要望している。

オランダ島 整備事業はいつ着手か

早期着手の準備進める

問 5月13日に町長、副町長、各担当課長ほか約12名がオランダ島視察を行った。整備事業はいつごろから着手するのか。

佐藤町長 環境省直轄によるトイレや更衣室の整備については、今月入札を行い工事着手は7月、年内完成を目指しているとのことである。避難路や栈橋などの町が施工する工事は、関係省庁との協議等もあることから詳しい時期については明言できないが、早期着手できるように準備を進める。



オランダ島整備の早期着手を
(5月13日の視察の様子)

「ごみポイ捨ての対策は

警告看板等で注意喚起を行う

問 町内各地区も整備され町並みもきれいになってきたが、現在、各地区でポイ捨てが見られるようである。このことについて町では、どのような対策を行うのか。

町長 ごみのポイ捨てなどのない生活環境を実現するためには、町民自身が環境美化に対するモラルを持つことが大切であると考えている。本町では、これまで町民や事業者による清掃活動などの協力を得ながら、環境美

化に努めてきたが、今後このことを基本としながら町民のモラルの向上

に向けて、広報やまだへの掲載や警告看板を設置するなどの注意喚起を行っていく。



清掃活動できれいな町に

区画整理事業の進捗は

計画期間内の完了に努める

問 北浜、柳沢地区の区画整理事業は計画どおり進んでいるか。また、これからかさ上げ工事をすすめる場所もあるようだが進

捗状況を示せ。

町長 柳沢北浜地区土地区画整理事業については、国道45号のかさ上げや県施工の水門および防

潮堤工事との調整を図りながら、道路工事や宅地整理工事などを進めている。工事に多少の遅れは見られるものの令和2年度末の換地処分を目指し計画期間内で事業が完了できるように努めている。また、区画整理区域外の

大杉神社周辺で予定している工事は、復興整備により国道周辺地区との高低差が生じたため、雨水排水対策として町道沢田・関谷線のかさ上げ改良を行うもので、現在、工事発注に向けて準備を進めている。



阿部吉衛 議員
(新 生 会)

山田町総合戦略

指針は町長がしっかり管理を

情熱を持ち取り組んでいく



田老賢也議員
(政和会)

問 山田町総合戦略や観光復興ビジョンなど、これからの山田町が向かう指針となる素晴らしい計画が策定済みである。しかしこれら計画には、手付かずの項目が幾つも存在する。これでは計画の意味がなくなってしまう。実務や細かい仕事は各課の担当職員が進めていくが、町がどのように進むかという計画・指針は、トップがしっかりと目を光らせていかなければならない。

佐藤町長 計画に沿って進めて成果が出てきているものもある一方で、指摘されたとおりのものもある。足りない部分を補い、情熱を持って進めていく。

ふるさと納税 商品以外のサービス提供は

観光・体験型の返礼を実施

問 以前からふるさと納税に力を入れるよう提言しており、商品だけでなくサービス提供等の幅広い返礼品を検討するよう伝えてきた。現在の進捗は。

町長 体験観光のチケットやケビンハウスの宿泊券等、本町を訪問するタイプの返礼品を研究中。交流人口増加にも有効であると認識している。

問 ふるさと納税は自治体が努力して収入を増やせる数少ない手段。近隣自治体は年間1億円から数億円ほどの寄付があるが、山田町はほとんど減少して5000万円ほど

になってしまった。億単位の寄付があればさまざまな事業を実施できるの力を入れるべき。
野口水産商工課長 今年度からサービス型を実施する。柔軟な発想で対応していく。

避難行動 要支援者への今後の対応は

人海戦術で個別計画策定

問 災害時要支援者の個別計画策定が国から推奨されているが、町ではいまだ策定に至っていない。個別計画の必要性は高いが、策定・更新の間や支援側の負担を考えると厳しいのが現実である。

甲斐谷副町長 難しいのは間違いない。今後は人海戦術で個別計画策定を進める。

◆ 各課の横の連携が足りない
◆ 地域おこし協力隊の現状

その他の質問

行政区	情報提供同意	あり	なし	名簿番号
行政区名				
区分	要介護・身体障害・精神・療育・難病・その他()			
住所(郡市)	山田町		電話番号	
ふりがな氏名		性別		
生年月日				
緊急連絡先	氏名	住所	電話番号	
	氏名	住所	電話番号	
避難支援者	氏名	住所	電話番号	
	氏名	住所	電話番号	
	氏名	住所	電話番号	
	氏名	住所	電話番号	
【避難支援時の特記事項】 【家族構成】 人				
【必要な保健・医療・福祉サービス】				
【その他】				
相談機関	山田町役場 長寿福祉課 82-3111 民生委員()			
	山田消防署 82-3139			
	山田文庫			

策定には支援者のご協力も必要です

緊急連絡道路（田名部地区）

救急車等に利用すべきでは

平時は利用できない

問 三陸沿岸道路の緊急連絡道路は救急車等の走行に利用できないか。上豊間根、田名部地区は、救急車の走行ルートとして三沿道を利用し、山田北インターを降りたとすると山田方面へ相当戻る形となる。ロスタイムが発生するため、国道45号を走行せざるを得ない現状がある。同地区には、緊急連絡道路が設置されており、救急車がこの道路が利用できれば、同地区の救急患者対応へ大幅な時間短縮が期待され、救命率の向上につながるのでは。

佐藤町長 当該緊急連絡道路は災害時の救援物資の輸送や緊急的な避難の場合などに限り利用する施設として配置された。災害時の通行規制により許可を受けた車両以外の通行ができないことから、平時の救急車両等も利用できない。

区



木村洋子議員
（日本共産党）



救急車の通行が望まれる緊急車両対応道路

その他の質問

◆被災者の再建の進捗状況とそれに対する支援は

地域公共交通網形成計画

宮古へのコースも

組み入れるべきでは

町外へは鉄道やバスの利用で

問 本町の地域医療の課題として、医師不足があり、そのため専門医のいる宮古方面などの病院へ行かざるを得ないという現状がある。患者の中には、長期にわたる治療や高齢化に伴い、既存の交通では利用が困難になっている状況も見受けられる。また、タクシーでは経済的負担が大きい。公共交通網の計画の中に宮古へのコースを週1回でも組み入れていくべきではないか。住み慣れた地域で暮らしていくためには重要な課題と考える。

町長 町内路線と宮古方面等に運行される広域路線とを結ぶ交通ネットワークの構築も計画に組み込まれている。町外への通院はこれまでどおり鉄道やバス等の公共交通機関を利用してほしい。

ひきこもりへの対応は

個別に対応している

問 全国的にひきこもりが増加傾向にあり、問題の複雑さがさらに深刻になっている。本町においても身近な問題であり、対応はどのようになっていくのか。

町長 家族や地域住民からの相談があった場合に、面談や訪問により状況を把握した上で、専門の相談窓口につなげていく。他機関で実施するひきこもり家族を対象とした教室への参加を促すなど個別に対応している。

ハーフィンターは何カ所か

県内19カ所に計画されている



菊地 光明 議員
(新 生 会)

問 県内の三陸沿岸道路については宮古以南が全線開通し、残るは宮古以北の一部区間だけとなった。町は完成後ハーフィンター解消に向けて活動をするとのことであったが、このハーフィンター問題は町だけでなく全県で取り組む問題と思う。現在、県内の三陸沿岸道路にハーフィンターは何カ所計画され、その解消に向けて今後どのような活動をするのか。

佐藤町長 インターチェンジは県内に41カ所計画されている。そのうちハーフィンターチェンジは19カ所計画されており、現在10カ所が供用されている。フル化について三陸国道事務所から

は、三陸沿岸道路全線供用後、交通量やインターチェンジの利用状況、周辺の開発状況を踏まえ、必要性等について検証を行うと聞いており、今後は整備に必要な道路関連予算の確保に関し、期成同盟会等と連携を図っていく。

意見 山田北インターのフル化を早期に実現するためには期成同盟会等と

連携を図ることも大事であるが、町独自に町当局と議会並びに町民の方々と共通認識を持つことが大事と考える。前回の質問で命の道としての共通認識を確認しているが、今後はそれに豊間根地区にとつて生活圏は宮古地区になることを全員の共通認識として対応していくことを指摘し今後も議論を重ねたい。



フル化に向けて共通認識の必要な山田北インター

浜川目地区の護岸工事は

旧防潮堤の撤去工事に入る

問 浜川目地区から処理場までの護岸工事の整備計画は。

要望 浜川目地区の護岸前の海域は町内でも数少ないマツモ、ノリなどの海藻類の重要な磯根漁場である。これらの漁場に影響が及ばない工事を希望する。

町長 現在、防潮堤と重複する町道の付け替え工事等を行っている。順次、旧防潮堤の撤去工事を行う予定である。

希望する。



採貝藻漁場として重要な浜川目地区海岸

道の駅の存続は

現状のまま存続させる

問 船越地区の道の駅について、災害時や船越地区の生活を考えると存続させるべきと思うが。

町長 柳沢地区に新たな観光拠点を整備した場合でも、これまでどおり物販機能やトイレ休憩機能を有する施設として存続させたいと考えている。

議会活動レポート

学校給食、小中一貫教育、公共交通の取り組みを視察

総務教育常任委員会



大槌町では学校給食、小中一貫教育を視察

昭和49年に開設された大槌町の学校給食センターは、食材について地産地消を積極的に取り入れており、低農薬の食材を使用するなど、児童生徒の体への配慮がなされていた。

陸前高田市の公共交通は、震災の甚大な被害を受けた沿岸部と市街地の商店や病院等を結んでおり、事前登録した地点から目的地までの送迎があり、今後の世の中に大いに役立つと思う。

委員会報告書を提出

議会改革検討特別委員会

本町議会の改革について検討するため28年9月定例会において設置された議会改革検討特別委員会（黒沢一成委員長、委員は議長を除く全議員）の調査・検討結果の報告が行われました。

会では復興事業においても町に対する監視機能を発揮し、政策提言などを通じて町民の意見や要望を伝えることに主眼を置き、町民に開かれた身近で信頼される議会、町民の負託に応えられる議会の実現に向け議会改革を推し進めてきました。

● 検討結果（決定事項）※一部を抜粋

1. 議会基本条例の制定
明るく住みよい町づくりを目指し、議事機関としての機能を生かした議会活動を展開するため、本年4月1日から条例を施行しました。
2. 定例会の日程・内容の案内
ホームページ、防災行政無線での案内に加え、町内各所へのポスター掲示、チラシの窓口配架等で定例会の日程・内容についてお知らせします。
3. 町内各種団体との意見交換会の開催
団体が抱える課題を共有し政策提言につなげることを目指し、意見交換会を開催します。
4. 近隣自治体議会との合同研修の開催
宮古地区広域市町村連携会議を組織し、議員相互の交流および研修活動を実施します。
5. 反問権の導入
会議出席者に論点整理のための反問権を付与することとしました。

議会を傍聴しませんか

次の定例会は**10月23日（水）**から**10月30日（水）**に開催される予定です。お気軽にお越しください。

山田町議会の定例会は、3月、6月、9月、12月の年間4回、役場5階の議場で開催されています。今年は9月に町議会議員選挙が行われる予定のため、9月定例会は日程を変更して10月に開催される予定です。

一般質問や議案審議などを通して、町の課題や将来の方向性が見えてきます。議会を傍聴してみませんか。

傍聴の手続きは、傍聴人受付票に住所、

氏名を記入するだけの簡単なものです。

詳しい議事日程等については、町ホームページで確認できます。また、定例会の直前には議員自らが町なかにポスターを掲示しているので、そちらもごらんください。

不明な点については、議会事務局（電話0193-82-3111 内線511）へお問い合わせください。

みんなの「声」

Vol.9

町民の皆さまからの町への提言、思いなどを紹介します。
表紙(1ページ)に登場いただいた家族にお話を聞きました。

田の浜地区在住の永野さん家族

信吾さん 長男 大吾くん
朋恵さん 長女 凜佳ちゃん

子どもが夢を持てる町に!

町の好きなところは

自然が豊かで海が美しいところ。あと、町民が一体となって開催されている祭り。参加することも見ることも最高なので、このまま継続してほしい。

町に期待することは

子どもたちが夢を持って生活できるような町づくりをしてほしい。漁業と観光推進に力を入れてほしい。

子どもたちへの将来の希望は

健康やかに育って、健康的に生きてほしい。

傍聴席からひとこと



佐藤 恵子 さん

No. 51

誰でも傍聴できると聞いたことで興味が湧き、足を運ぶきっかけとなりました。

傍聴席に入ると、町長はじめ役場の方々、議員さんがずらり。思わず姿勢を正しました。

私は山田町に引っ越してきて3年ですが、とても身近な議題が多く興味深く拝聴しました。1つの議題に対して何回も質問と答弁をやりとりするシーンでは、議場は高い熱量に包まれていました。この緊張感はどこからくるのかと考えていましたが、議会は町の最前線の事柄を知る

ことができる唯一の場所だからなのでしょう。ここで決めたことが山田町をつくり、歴史となっていく。

そして、その緊張感ある議会での質問の中には、山田に住んでいる私たちの意見から生まれたものもたくさんあるということでした。

たくさんさんの議題に触れることは、さまざまな角度から町の課題を考えるきっかけとなるため、もっと多くの方が傍聴することで、将来の課題になる意見もたくさん紡ぎ出されるのではと感じました。

あともがき

▼任期最後の定例会が終了しました。臨時議会や全員協議会などは9月まで開催されますが、一般質問や議会だよりは今回が最後です。
▼政治は難しいというイメージがあり、距離を置く人が多いです。しかし、道路の修繕や学校運営など、皆さんの普段の生活は政治そのもので切っても切れない関係です。つまり町を良くしていくためには、町民が「町政治に興味を持つ」ことが何よりも大切です。どうせ離れられないなら、興味を持つ人が増えるように、また議会の情報を欲しい人がすぐ見られるように4年間活動してきました。▼9月には次の町議会議員選挙があります。投票はとても簡単で、5分で終わります。選挙に行き、みんなで町を良くして行きましょう!(田老)

◆発行責任者

議長 昆 暉 雄

◆議会広報編集特別委員会

委員長 吉川 淑子
副委員長 菊地 光典
委員 佐藤 克典
委員 田老 賢也
委員 木村 洋貴

関 清 貴
木 洋 貴
田 老 賢
佐 藤 克
菊 地 光
吉 川 淑
川 淑 子